

令和 6 年 6 月 9 日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02052

研究課題名（和文）中国の親子・親族関係の変質に与えた一人っ子世代の影響に関する実態研究

研究課題名（英文）A Study on the Influence of the One-Child Generation on the Transformation of Parent-Child and Kinship Relationships in China

研究代表者

施 利平（SHI, Liping）

明治大学・情報コミュニケーション学部・専任教授

研究者番号：20369440

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：中国浙江省紹興市で生まれ育った一人娘40名に対して、インタビュー調査を行い、一人娘の結婚と出産、および一人娘と親との世代間関係を調査した。一人っ子世代の誕生と一人娘家庭の大量出現により、中国の父系親族規範が双系化するとこれまでの研究で通説となっていたが、本研究ではいまだに中国社会では父系親族規範が維持されていることを検証した。また、親世代と子世代は相互扶助の原理に基づき、親は子世代に将来の扶養や介護を期待しつつも、子世代のライフイベントに大きく関与していることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的には中国社会の人口政策と家族・親族規範との関連を解明した点であり、社会的意義としては公的な社会保障制度が十分でない中国社会ではいまだに親子間の相互扶助は人々のライフイベントを形づけ、人々のウェルビーイングに大きく寄与していることを明らかにしたことです。

研究成果の概要（英文）：Forty only daughters born and raised in Shaoxing, Zhejiang Province, China, were interviewed to investigate the marriage and childbearing of only daughters and the intergenerational relationship between only daughters and their parents. Although it has been a common theory in previous studies that the birth of the only-child generation and the emergence of large numbers of only-daughter households have led to a bicentennialization of the patrilineal kinship norm in China, this study verified that the patrilineal kinship norm is still maintained in Chinese society. It was also revealed that the parental and child generations are based on the principle of mutual support, with parents expecting their children to provide future support and care for them, but also being heavily involved in their children's life events.

Translated with DeepL.com (free version)

研究分野：家族社会学

キーワード：一人っ子政策 一人娘 父系親族規範 世代間関係 結婚 出産 子どもの価値

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景には、中国で1979年から2015年までの36年間続いてきた一人っ子政策がある。一人っ子の人口は、2007年末に1.5億を超え(楊・王2007)、2010年に1.64億を超えている(辜2016)。これらの一人っ子は一つの世代を形成し、中国社会の人口構造もさることながら、家族・親族制度を始め、中国社会を大きく変容させると言われてきた。

これまで息子と同居し、息子によって老後扶養されることは、公的年金制度と医療保険制度が整備されていない農村部の大部分の高齢者と、社会保障制度を享受できない都市自営業者にとっては、老後の主な生活保障であった。しかし、一人っ子世代の出現は、4人の祖父母、2人の親と1人の孫により構成される「4・2・1家族」をもたらし、老親扶養責任の過重が予想される。これは、高齢者扶養を私的扶養に大きく頼る中国社会にとっては、社会の安定を根底から揺るがしかねない事態を招くことになる。同時に1.64億の約半数の家庭は娘しか持たない現実、息子と同居し、息子による継承・相続と祖先祭祀を原則とする父系的な親族規範、いわゆる父系のみでの家族・親族の再生産を不可能にしている。

一人っ子世代の誕生が、伝統的老親扶養モデルと父系親族規範に変質をもたらすかに関しては、これまで相反する知見が共に提示されてきた。一方では、一人っ子政策の実施により、娘しかいない世帯数が増加している。娘しかいないことは、財産相続や老親扶養・介護における娘の重要度の高まりを意味し、父系的な親族関係の変容をもたらすと指摘されてきた(小浜2015)。実際に夫側と妻側の親元に、それぞれ住まいを構え、決まった期間をどちらかの親元で生活し、双系的な親族関係を形成している事例もある(黄2014)。他方、富裕層にとっての資産継承者や貧困層にとっての老後扶養者として、息子が希求されるため、新生児性比のアンバランスが見られ、父系的な親族規範がむしろ強まっているという研究も見られる(田・王2008)。また、一人っ子世代の子どもの姓をめぐって、父系親族規範に沿い父方の姓を継承するのか。それとも母方の姓を継承するのか。または他の形をとるのかについて、夫婦、双方の親の間に対立が生じ、夫婦間不和や離婚が多く発生している。

結局、一人っ子世代の誕生が、中国伝統的な老親扶養モデルである「養児防老」、および息子との同居、息子による継承・相続と祖先祭祀を原則とする父系的な親族規範に変質をもたらすのか(本研究の学術的問い)。この問いは、高齢者の生存の質や社会の安定に関わる現実的な問いであり、また人々の生き方や社会構造を理解する上で根本的な問いでもある。さらに、この問いは、少子化が進行し子ども数が減少する先進諸国においても、老親介護ネットワークや子育てネットワークの変容をはじめ、家族や親族関係が大きく変化しているゆえ、人口学的変動と家族・親族の変容を解明する上でも重要である。

2. 研究の目的

本研究は、一人っ子世代の女性対象者を通して、女性の生家と婚家との関係を比較研究することにより、一人っ子世代の誕生が、中国伝統的な老親扶養モデルである「養児防老」(息子による老親扶養モデル)、および息子との同居、息子による継承・相続と祖先祭祀を原則とする父系的な親族規範に変質をもたらすのかを検証する。これは、従来一人っ子研究で注目されてこなかった一人っ子世代が社会に与える影響に焦点を当てることにより、少子化が進行する現代社会の人口学的変化と家族・親族の変容を解明する独自の視点を提供する。

3. 研究の方法

文献調査とともにインタビュー調査を実施した。一人っ子の有配偶女性で、現在子どもをもち、夫方と妻方の双方の親が生存している対象者(40名)に対して、2019、2020、2021年に本調査と、2021と2023年追調査を実施した。

調査方法は機縁法によるものである。知人(調査対象者に知人や友人を紹介してもらったケースも含む)を通して、すでに結婚し子どもを一人以上もち、かつ一人娘である一人っ子世代の女性対象者を募集し、中国語標準語による半構造化したインタビューによる調査を行った。一人当たりの調査時間は1.5H~2Hである。調査対象者の承諾を得て、インタビューの内容を録音した。

4. 研究成果

- ・「後継者の獲得をめぐる世代間の交渉—中国の一人っ子世代の出生をめぐる」(2021年) 比較家族史研究学会『比較家族史研究』第35号:99-131
- ・「一人っ子世代の婚資のあり方からみる双家の後継者確保戦略—中国浙江省紹興市の事例研究から」(2022年) 明治大学社会科学研究所『明治大学社会科学研究所紀要』60(2):115-135
- ・「一人っ子世代の第二子の出産をめぐる世代間の交渉—中国浙江省紹興市の事例研究から」(2023年)『比較家族史研究』第37号:118-145
- ・『中国の一人娘は出産とどう向き合うのか：一人っ子政策 / 結婚 / 世代間交渉』(2024年) 青弓社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 施 利平	4. 巻 第37号
2. 論文標題 「一人っ子世代の第2子の出産をめぐる世代間の交渉 中国浙江省紹興市の事例研究から」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『比較家族史研究』	6. 最初と最後の頁 118-145
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陳予茜	4. 巻 第37号
2. 論文標題 「中国都市部における既婚一人娘と生家および婚家との関係性 浙江省紹興市の事例から」 『比較家族史研究』第37号:199-217	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『比較家族史研究』	6. 最初と最後の頁 199-217
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陳予茜	4. 巻 第20号
2. 論文標題 「一人娘の就職から捉える現代中国女性のライフスタイルと親子関係 浙江省紹興市の事例から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国際ジェンダー学会誌	6. 最初と最後の頁 149-169
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 陳予茜	4. 巻 第22号
2. 論文標題 「中国の一人娘の育児からみた母親との関係性 浙江省紹興市の事例から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報コミュニケーション研究論集	6. 最初と最後の頁 19 - 36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 施利平	4. 巻 第60巻第2号
2. 論文標題 一人っ子世代の婚資のあり方からみる双家の後継者確保戦略 中国浙江省紹興市の事例研究から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 明治大学社会科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 115-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陳予茜	4. 巻 第29号
2. 論文標題 中国の一人っ子女性の結婚をめぐる母娘の役割分担 浙江省紹興市の事例研究から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日中社会学研究	6. 最初と最後の頁 118-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 施利平	4. 巻 第35号
2. 論文標題 後継者の獲得をめぐる世代間の交渉－中国の一人っ子世代の出生をめぐる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 99-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 施利平
2. 発表標題 中国一人っ子世代の親子・親族関係 一人っ子世代の出産意欲・行動及びその規定要因
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 陳予茜
2. 発表標題 中国一人っ子世代の親子・親族関係 地方都市出身の女性の就職と、就職における親との関係性
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 施 利平
2. 発表標題 中国一人っ子世代の親子・親族関係 一婚資と住まいからみる世代間関係
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 陳 予茜
2. 発表標題 国一人っ子世代の親子・親族関係 一人っ子女性の結婚・子育てからみた母娘関係と家族の在り方
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 施 利平、陳 予茜
2. 発表標題 中国の一人っ子世代の親子・親族関係 一浙江省紹興市の事例研究から一
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陳 予茜、施 利平
2. 発表標題 中国の一人っ子世代の親子・親族関係 女性対象者から見た母娘の関係性
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 施 利平	4. 発行年 2024年
2. 出版社 青弓社	5. 総ページ数 207
3. 書名 中国の一人娘は出産とどう向き合うのか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------